

困窮学生に食材・日用品

八戸医療生協、八学大と八学短大に寄贈

八戸医療生協(中道博章理事長)は28日、新型コロナウイルス感染拡大の影響で生活が困窮している学生を応援しようと、八戸学院大と同大短期大学部に食材や日用品を詰め合わせた支援セット100人分を寄贈した。同セットは希望する学生に配布される。(三浦千尋)

コロナ禍支援、100人分

同組合は、組合員の出資金を基に八戸生協診療所や介護施設を運営するなど、八戸市内で医療福祉事業を展開。2020年に設立30周年を迎えた。長引くコロナ禍により、

日用品や食料品などが大量

に寄せられた。同大で行われた贈呈式で中道理事長が、日頃から実習の受け入れやボランティア活動で交流がある同大を寄贈先として選んだ」と経緯を説明。「将来、介護や医療、保育、健康づくり、地域振興の場で皆さんが活躍することに期待しています」とエールを送った。

同大の水野眞佐夫学長は「地域の皆さまからの支援は、学内では学べない貴重な経験。改めて地域に育てられていることを実感している」と謝意を伝えた。

学生代表として贈呈式に参加した、同大地域経営学科3年の天内颯さん(ひ)は「授業や部活動にもお金がかかる上に、マスクなども購入しなければならず、食費を削ってしまう学生も多い。支援を頂けて本当に助かります」と感謝。短期大学部介護福祉学科2年の松浦由依さん(19)は「地域の皆さんへの感謝を忘れずに、勉強に励みたい」と笑顔を見せた。



八戸医療生活協同組合による「学生応援プロジェクト 大学生食材支援」贈呈式

食材や日用品などを手渡した贈呈式